

## 便秘は心臓血管病による死亡リスクと関連する - 日本の研究から

便秘は心臓血管病の発症と関連することが示唆されている。しかし、排便頻度と心臓血管病による死亡リスクとの関連についての大規模研究は、これまでに報告されていない。そこで本研究では、大崎コホート研究のデータを用い、便秘と心臓血管病死との関連について検討した。

大崎コホート研究に参加した 40~79 歳の男女 45,112 人を対象に、生活習慣に関する質問票に回答してもらい、排便頻度を調べた。排便頻度により「1 日 1 回以上群」「2~3 日に 1 回群」「4 日に 1 回以下群」の 3 群に分け、心臓血管病による死亡率を算出した。13.3 年の追跡期間中に、2,028 人が心臓血管病により死亡した。心臓血管病リスクは、「2~3 日に 1 回群」と「4 日に 1 回以下群」が「1 日 1 回以上群」と比べて有意に高く、多変量ハザード比はそれぞれ 1.21、1.39 であった。

したがって、日本人集団において、排便回数の少なさは心臓血管病による死亡リスクと関連することが示された。今回の結果から、今後、慢性便秘と心臓血管病死との関連の根底にあるメカニズムの解明に向けて研究が進むことが期待される。

出典：Atherosclerosis. 2016; 246: 251-256